

# ひらいてみちゃりい



福岡県学童保育連絡協議会  
2月号担当 ペンギン



2月号の表紙のタイトルは  
「ねえねえ どこから来たの?」

湯気の中で笑い合う子どもたち  
ほっと心がゆるむ表紙は  
研究集会そのものを象徴しているようです  
学童保育は、人と人との思いを寄せ合い  
ながらつくっていくもの  
その原点を、あらためて感じた一冊です



## 第60回 全国学童保育研究集会 in 福岡

—思い寄せ合い、新たな一歩

2025年10月25日・26日、そして11月9日のオンライン分科会。

全国各地から4,362名が参加し、福岡の地で初めて！第60回全国研が開催されました。  
会場いっぱいに広がる人、人、人。あの景色を目にした時、「本当に福岡で開催したんだ」  
という実感と、準備に関わってきた日々が胸にこみ上げてきました。



## 読んだあと、あの日を思い出す

2年以上にわたり準備を重ねてきた福岡県内の関係者と九州の地域連協。当日の運営に立ち、裏方として支え続けた実行委員たち。分科会では、子どもを真ん中に考え合う時間を過ごし、語り合い、制度の課題と未来への展望が真剣に語られました。

# 読んだあと、明日をがんばりたくなる

P22 特別報告「共に学び、はげましあい、成長していくことを願って」地域の中で、子どもを育てる。子どもと関わる中で、支援員もまた育っていく。平さんの報告から“学童保育は人と人との関係の中にある”ことが伝わってきました。子どもたちの姿に学び、仲間と語り合いながら実践を積み重ねていく日々。一人で抱え込まず、つながりと支え合いの中で成長していくことの大切さを、あらためて考えさせられる報告でした。



## 読んだあと、「全国研 in 山形」に参加したくなる

P9 記念講演「子どもたちが自ら社会をつくるには一共に生きる大人がたいせつにしたいこと」

大東文化大学の松田洋介先生の講演を聞いて

子どもを一人の主体として尊重し、安心して過ごせる居場所をつくる大人の関わり方について学びました。学童は単なる預け先ではなく、子どもが主役となって生活し、失敗や関わりを通して成長する大切な場です。日々の「おかえり」「ただいま」という何気ないやりとりはかけがえのない時間で、ちょっとした声かけが子どもの主体性を育てることを改めて感じました。家庭・学校・地域がつながり、子どもを温かく見守っていきたいと思います。

(北九州市・保護者)

全国研は“ゴール”ではなく、また一步を踏み出すための出発点。  
福岡から始まったこの一步が、全国の学童保育の現場へ

広がっていくことを願っています。

第61回は山形で、2026年10月31日(土)11月1日(日)開催です。



←全国研の情報は  
こちらからご覧  
いただけます



「日本の学童ほいく」誌は、日本中の選抜された保護者、指導員、学童保育所研究者の方々との編集会議をもとに、学童保育に特化して構成して作られた唯一の月刊誌です。

福岡県連協は、この月刊誌を是非たくさんの方々の保護者、支援員、学童保育関係者の方々に読んでいただきたいと思います。見どころ【ひらいてみちゃりい】を配信することにしました。

毎月担当を変えて、それぞれの視点から見どころを紹介していきますので、是非購読申し込みをお待ちしております。



申し込み先：福岡県学童保育連絡協議会

TEL:093-662-6000 FAX:093-662-6006